

ペットは社会問題の鏡

亀田由香利[†]（仙台市動物管理センター主幹）

不況が長引く中、マスコミは絶えずペットの話題を取り上げ、ペットブームは衰えを知らないように見える。明らかに人とペットの関係は濃く深くなっている。

平成17年の動物の愛護及び管理に関する法律の改正直後の平成18年度から狂犬病予防と動物愛護業務を命ぜられ、思えば、5年半、犬猫の保護・引き取り、返還・譲渡・処分、苦情対応、動物取扱業指導等の中で、様々な人や動物たちと出会い、他の仕事では無かった想像を絶する様な誹謗、中傷、罵倒の妨害から純粹無垢の優しい心遣いや手助けまで天と地の経験をすることができ、多くのことを学んだ。

大都市化、少子高齢化、核家族化等の社会構造変化により人々は単なるペットではなく、家族の一員、人生の伴侶として動物たちと生活を共にするようになった。今やペットの数は子どもの数を上回るといわれている。

その傾向に伴い、飼い主のモラルやマナーの欠如による放し飼い・鳴き声・排泄物などの近隣トラブル、安易な飼育放棄・虐待などが社会問題化するようになり、センターには苦情の電話が絶えず、犬・猫が毎日のように収容されている。

しかし、明らかにこの5年間で、飼い主の意識は変わりつつある。センターの収容頭数は減少し、返還率は高まり、譲渡数は増加し、結果、処分数は10年間で10分の1になった。

一方、一握りの飼い主であろうが、職を失った結果の経費の問題・単独高齢者の病気や孤独死・離婚など社会情勢を反映した理由で引き取りを求めてきたり、遺棄したり、決して指導にも従わない問題のある飼い主が目立ち、トラブルも悪質化・複雑化している。実際、ペットの問題ではなく、コミュニケーション不足を原因とした人間間のトラブルであることがほとんどである。

私たち動物愛護行政に携わる獣医師に与えられた大きな使命は動物愛護精神の啓発と高揚により、人と動物が共に幸せに生きていく社会を作ることという何となく難しく、高尚・壮大なものである。そもそも、動物愛護とは何か？平成18年12月には動物愛護基本指針が策定され、明文化されたものによると「人と動物とは生命体として連続した存在であることを認め、その命を利用し、

犠牲にしなければ、生存できないことを鑑み、命に対して感謝や畏敬の念を抱くことにより、生命尊重・友愛・平和・情操の涵養を図ること」とある。また、動物に対する意識・考え方が人それぞれ千差万別・多様であることを認めつつ、人と動物が共生できる社会を形成するために動物が万人に受け入れられるように合意形成しながら、動物の所有者としての社会的責任を果たすことを指導していくという理解・解釈に苦しむ厄介な役割を担っているのである。

なぜ、人はペットと共に暮らすのか？異種の動物と暮らそうとするのは人間だけである。失った自然をペットの中に求めて？いや、日本における近年の飼い主を見ているとやはり、愛情の捌け口に過ぎないのかもしれない。キリスト教が根底にあり、動物との付き合いの歴史が長い欧米では動物と人の間に境界があり、動物の特性を理解した上で目的意識を持って動物を飼っているように見えるが、日本人は動物に対し特殊な感情を抱く傾向があり、愛情を注ぐことを美化し過ぎることによる弊害が飼い主のモラルやマナーの欠如に繋がっているように思う。もともと、ペットを飼う目的が社会構造の変化による人間関係の希薄化・現代人の孤独を補ったり、逆に人間関係からの逃避が目的だったりする傾向がある中、人間とうまくコミュニケーションのとれない飼い主がペットの存在により感情の対立を起こす可能性は高くなって当然と考えられる。

したがって、飼い主になれば、必ず、加害者になる危

亀田由香利

—略歴—

- 1979年 東京農工大学卒業
- 同年 仙台市食肉衛生検査所勤務
- 仙台市経済局農政課
- 仙台市八木山動物公園
- 仙台市衛生研究所勤務を経て
- 2004年 仙台市動物管理センター勤務
- 現在に至る



[†] 連絡責任者：亀田由香利（仙台市動物管理センター）

〒983-0034 仙台市宮城野区扇町6-3-3

☎022-258-1626 FAX 022-258-1815

E-mail : yukari_kameta@city.sendai.jp

険性があることを頭に入れて、過度に感情移入することなく、種の違う動物が人間社会で生活していくルールを教えること、動物だけでなく人にも優しい地域のいい人にならなければいけないことが飼い主の絶対条件であるということである。

正直、私たち公務員獣医師の仕事としての動物愛護業務は軽視されがちで、肩身の狭い思いをしているのが、現状である。

人の精神状態に関する凶悪犯罪・うつ・自殺等の社会的な現象が起こっている中、動物による人の精神的な支えがどれほど重要であるか、動物を飼うことは生活の質の向上に繋がり、出会いから死までの多くのことを学び、人の想像力を刺激し、健康状態の保持に有効であることをどうしたらうまく伝え、説得できるのだろうか……心に傷を負いながらも必死に自己アピールする犬猫たちに癒されながら、日々奮闘している。